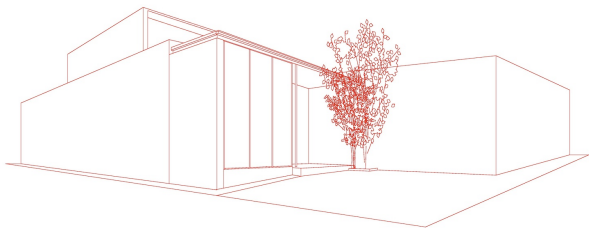




小さな住宅といえども 街なかの景観に寄与したい



House S | 幹線道路に面した街なかの交差点に建つ住宅





ゲスト用駐車スペースをデザインする
オープンスペースと一体化した玄関ポーチ



樹につながるオープンスペース



窓のない「西壁」：
遮音、断熱対策として



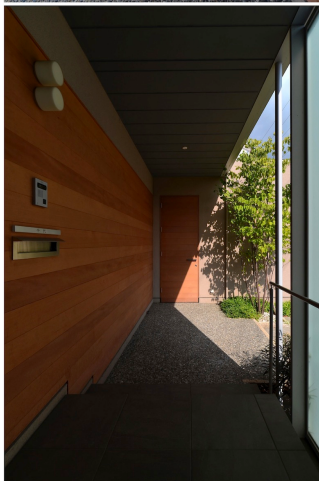
樹影が時間とともに移ろう



防風の役目を果たすガラススクリーン
ももちろん、柔らかな光を入れつつ目隠しにもなる
落ち着いた接客のできる玄関ポーチを演出



格南天（ひいらぎなんてん）：裏玄関に続いて庇階付け



玄関ポーチ見返し





玄関扉を開けてもガラススクリーンが外部との緩衝帯となっているのがわかる



玄関扉がL形になっているのはベビーカーなどを置いて使い勝手が良いように



キッチンとの通気開口：よどまない空気環境のために（↓部分）



食事コーナーとはつかず離れずのちょうど良い距離感に



中庭を取り込んだリビング



隣家から覗かれることのない中庭（隣家の屋根のみが見える）は夜でもカーテンを閉めることがない。そして、騒音遮断にも効果があり静かな環境を提供してくれる



LDKの形はいろいろとある。もっとオープンな関係を望む方も多いが、今回の場合はリビング、食事コーナーがこのくらいで、それぞれが落ち着きつつもつかず離れずの関係にしたい



バーベキューや子供たちの遊び空間として使われている中庭





道につながるオープンスペースのデザイン

～ 小さい住宅といえども街なかの景観に寄与したい ～

プライバシー意識

近年の家族形態が核家族からさらに一人ひとりが分化した「個家族」という形態にまで変化していると、その様相が語られる現在、個人や家族が社会とつながる形はずいぶんと多様化しています。個人情報秘匿されることの多くなったこの現代社会の状況にあわせて住まい手もプライバシーの確保に敏感になってきました。表札のない家やいつもカギのかかった玄関扉など以前の地域社会の誰もが同期していた時代からは考えられない現象がこの富山でも一般的になりました。近隣の関係が上手くいっている地域でも住まい方はプライバシー保護やセキュリティを求める建て主が多くなり住宅プランの考え方が大きく変質してきているのが現状でしょう。このようにプライバシー確保の気分が現代の住まいにとって一般的になっており以前のような地域社会とつながるオープンな形の家は少なくなってきました。そうすると、どの家もこのままでは閉鎖的な構えの家にならざるを得ず、いつもカーテンが閉まっているような息の詰まった環境が形成されてしまうことが懸念されます。

地域とつながる意識

昨今の社会状況の中ではプライバシー確保を意識した家づくりを受忍せざるを得ない状況です。しかし、そうした状況であっても周辺の地域社会とつながる住宅でありたいと思います。

公共性の認識

今回の家づくりでもプライバシー確保はもっとも重点的な課題でしたが、しかしどんな建物であってもその建物が建つ「場所との関わり」から逃れることはできません。家を個人的なもの、場所を他人（社会）との関わりのある公共的なところと考えると、プライバシーは個人的なものとして解決すればいいことになりますが、一方、場所が必然的に持っている公共性との関わりも大切になってきます。

街なみの景観に寄与

住宅の設計では個人の部分がより大切に扱われますが、この公共性につながる部分も疎かにはできません。本計画でも地域につながる公共的な部分をアプローチにつくったオープンスペースにその役目を与え、地域の街並の風景に寄与したいと考えて設計したものです。

例：道を作らず緑地にて緩衝帯をつくる



例：宅内とは別に公開緑地をつくる

総工費：2500万円
竣工年月日：平成22年(2010年)10月10日



小さな住宅といえども街なかの景観に寄与したい